

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

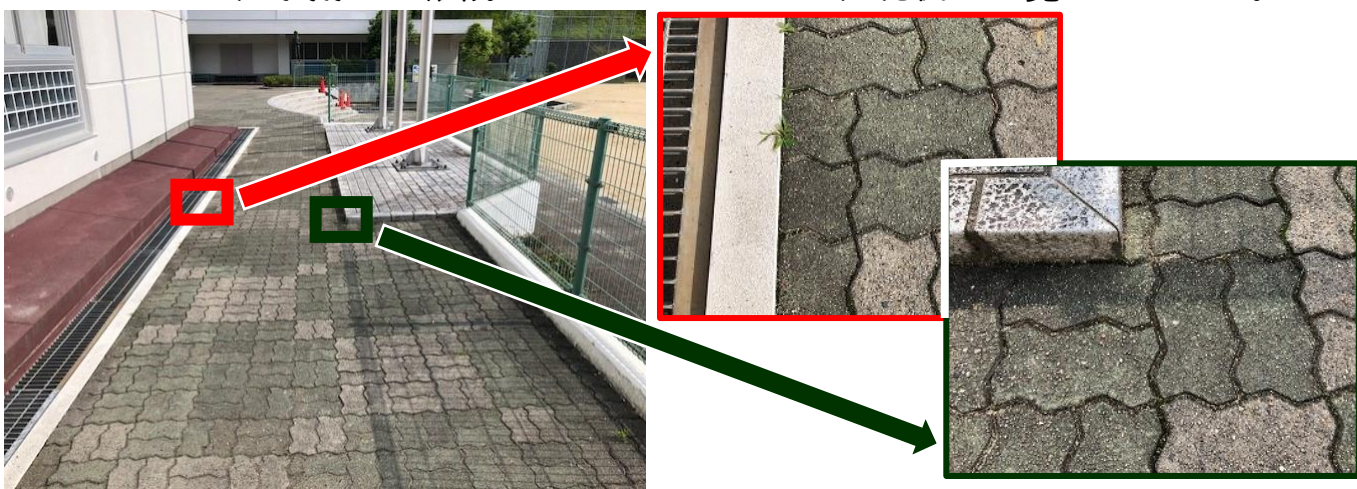
令和 4年 6月 24日(金)

その2 通算 248号

## ◇ タイル洗淨 大作戦 ①大惨苦戦 を防ぐ 対策グッズ

「創立120年記念式典」に合わせて行った【校内タイルの全面洗淨】から約2年が経つ。2年とは言え、経年蓄積された汚泥により、随分と汚れが目立ってきた。

写真は管理棟東側エリア。側溝の蓋をコンクリートからグレーチングに変えたことによって、水捌けは格段によくなったものの、現状はご覧のとおりだ。



タイル表面の汚れが気にはなるものの、2年前のように対応すべきレベルではない。問題はタイル間。さらに言えば「コケ」だ。

管理棟東側と言え、日中の大部分は陽が当たるエリア。管理棟自体も平屋で、建物の陰になる時間帯は極めて短い。さらにグラウンドに面しており、風通しもよい。こんな場所でコケが自生するのは、人の往来の少なさによるところが大きい。児童が往来するのは登下校時<sup>プラスアルファ</sup> +  $\alpha$  程度。生長し放題の環境といってもよい。

白枠内の「明るい緑色のコケ」は春から梅雨期にかけて繁殖した新しいコケ。こんもり盛り上がっているのが写真でも確認できよう。コケの上にコケ。コケの積層状態である。学校と同じ形状のタイルブロックは街中でも見かけるが、梅雨時とはいえ、こうした積層コケは人の往来のある街中でまず見かけることはない。

さらに積層コケは、雨が降ると表層がふやけて体積がぐんと膨張する。踏みつけるとゲル状に。滑りやすいので歩く際には注意が必要で、厄介な存在なのだ。

加えて、夏期に向けてこれから猛烈に勢いを増す雑草。適度に水分を含んだコケの存在は雑草にとっては格好の共存仲間だ。雑草の温床コケ撤去が一番の近道。

ということで、約2年ぶりに【タイル洗淨大作戦】を敢行することとなった。

ところで、タイトルの「大作戦」に「大惨苦戦(みじめで苦しい)」と付したのは、二つの理由がある。

まずは、【①機材問題】。

タイル洗浄には高圧洗浄機(マキタ製)を利用するのだが、マシンが強力であるがゆえの問題点もある。ドイツメーカーのケ○ヒ○ーも使用経験のある個人的な意見であるが、かのケ○ヒ○ーよりもマキタ製の方が水圧の割に強力であるように感じる。これはノズルが生み出すトルネード水流によるものと思われるが、その分、機材を保持する指、手首、二の腕にかかる跳ね返り振動は大きい。がつんとくる。短時間なら問題ないのだが、長時間使用となるとかなりこたえる。



さらに握りの部分。握りのスロットルレバーが噴水のスイッチとなっているため、握りスロットルは硬めの仕様だ。連続使用では握力を奪われるどころか、手首にずどんとくる。2年前は腱鞘炎になりかけたほどだ。おまけにスロットル固定スイッチは使用不能状態ときている。全く困ったものだ。



そこで、スロットルを引いた状態のまま養生テープで固定した。これで本当に作業が楽になった。身体にかかる負担を取り除くことでストレスとなり、長時間の連続使用も気にならなくなった。



そして、最大の難敵【②泥水の跳ね返り】。

高圧洗浄機を使用した方ならご存じだとは思いますが、洗浄汚水の跳ね返りがある。この「跳ね返り」が通販のCMで全く触れられてないのは、マシンの最大の弱点なのだ。使用する限りは、この「汚水の跳ね返り」を覚悟して作業するしかない。

しかも、タイルの目地に詰まりは単体の土ではなく、埃などの混じった汚土。さらにコケが加わる。コケ汚土に水分が加わると、まさに【汚泥】に変容。コケの生臭さも相まって、見かけなくなった昔の「どぶ臭」と表現するのが一番近い。

覚悟するとはいっても、「どぶ水」をかぶるのは遠慮したいものだし、できれば衣類等の洗濯も避けたいというのが本音なのだ。



そんな折、ぶらりと立ち寄った「ワー○マン」で良品を見つける。

「不織布の作業つなぎ」である。しかも、価格は驚くほどの安さ。



すでに購入済みであった「完全防水手袋」と「長靴」を合わせても 3,000 円を大きく切る。繰り返し使用に耐え、ファスナー付で脱着もしやすいのだ。

体力と防泥。双方の味方を得て、タイル洗浄大作戦が始まった。